

# 食品廃棄物無駄なく活用

探訪  
ググッと首都圏



食品廃棄物を破碎してタンクに移す

0配達・購読のお問い合わせ  
7時～21時  
0120-214-946

川横 浜崎  
0445-222-7931

すべての食品廃棄物を無駄にしない。『さがみはらバイオガスパワー』（相模原市）はコンビニや弁当工場から出る食品廃棄物をフル活用するバイオガス発電所だ。可能な限り回収していながら、

東京都・神奈川県にある大手食品メーカーの食品工場やスーパーなど100社以上で、食品廃棄物はビニール袋に詰め込まれていく。

さがみはらバイオガスパワー  
田名発電所

(相模原市)

ド（多段階）利用」を目指している。

JR相模線畠山駅から南へ2キロの工業団地の一画にある日本フードエ

南北35～40haに達する。食品廃棄物はビニール袋に取り除いて破碎装置にかけ、発酵タンクに入れて豚用の液体飼料を製造する。1日42tを製造し、関東近郊の養豚事業者に販売している。

ただ、塩分や油分の多い緑菜などは飼料にするのが難しく、これまで回収していなかった。日本フードエコロジーセンターの高橋巧一社長は、「リサイクルにつなげたいと考えていた」と話す。

そこでリサイクルセンターの高橋巧一社長は、「段階を踏んで食品廃棄物を活用する拠点は全国的に珍しい」（高橋社長）という。

現状の発電所の稼働率は3割程度だが、3年目にはフル稼働を目指し、企業や自治体、海外からも盛んに視察がある。高橋社長は「食品廃

棄物に対するのが難しい食  
物は破碎して専用の調整  
タンクへ投入。調整タ  
ンクからパイプラインを  
通して、1500tに入る  
巨大なコンクリート製の  
発酵タンク2基に移す。  
発酵で発生したメタンガ

スを燃料にし、発電機を  
運転する。この発電機は、  
これまでの電力供給量の2倍  
以上の電力を供給する。  
また、発電機の発電量は、  
これまでの2倍以上の電力を供給する。

高橋社長は、「食品廃棄物の活用モデルを構築したい」と意気込んでい

## 飼料・発電・肥料 多段階で

さがみはらバイオガスパワー  
田名発電所

(相模原市)

飼料に対するのが難しい食  
物は破碎して専用の調整  
タンクへ投入。調整タ  
ンクからパイプラインを  
通して、1500tに入る  
巨大なコンクリート製の  
発酵タンク2基に移す。  
発酵で発生したメタンガ

スを燃料にし、発電機を運転する。この発電機は、これまでの電力供給量の2倍以上の電力を供給する。また、発電機の発電量は、これまでの2倍以上の電力を供給する。

高橋社長は、「食品廃棄物の活用モデルを構築したい」と意気込んでい

る。(二村俊太郎)